

2022年10月26日

報道機関 各位



入間小のケヤキを
未来につなぐ会

第2次署名提出、累計で16,782筆に

— 概要 —

- ✓ 第2次分の署名700筆（オンライン+紙）と寄せられた声17件を提出
- ✓ 6月から寄せられた署名の累計は16,782筆に
- ✓ 狭山市長は面会拒否

入間小のケヤキを未来につなぐ会は10月25日、オンライン署名サイト「change.org」で寄せられた賛同者のリストと署名用紙で寄せられた直筆の署名を合わせた**700筆を狭山市長に提出**しました（署名原本は都市建設部市街地整備課に提出）。同時に、賛同者から寄せられた**コメントや意見を載せた17件の声も提出**しました。詳細は下記の通りです。

なお、今回の第2次署名提出に先立ち、**小谷野剛 狭山市長には面会の要請**を行っていました。市長からは10月21日（文書は18日付）に面会できない旨の回答文書（別紙参照）が届き、署名提出時の面会は実現しませんでした。**切実な市民の声に直接向き合わない市長の姿勢**を残念に受け止めています。私たちは引き続き市長面談を強く要望していきます。



代表から市街地整備課の職員に手渡される署名第2次分の束

署名と声の内訳

【署名（第2次提出分）】

	第1次（7/20）	第2次（10/25）	累計
オンライン署名（change.org）賛同者数	15,578 名	346 名	15,924 名
紙の署名数	504 筆	354 筆	858 筆
合計	16,082 筆	700 筆	16,782 筆

【寄せられた声】

17件



この件に関する
お問い合わせ先

電話 050-3635-1920（代表 福住）

Eメール keyakinomirai1920@gmail.com

WEBサイトニュースページ（<https://keyakinomirai.com/newsroom/>）はこちら▶



別紙

2022年10月7日

狭山市長
小谷野剛 様



入間小のケヤキを
未来につなぐ会
代表 福住勇矢

事務局 狭山市

電話 050-3635-1920 (代表)

Eメール keyakinomirai1920@gmail.com

ご面会のお願い

拝啓 入曽に澄み渡る秋空の下、ケヤキの色に変化の兆しが見える季節となりました。狭山市長におかれましては、市民に寄り添い共に乗り越えていく市政運営に日々ご尽力いただき、ありがとうございます。

さて、今年6月より開始した「旧入間小のケヤキとイオンの共存を求める署名」は、活動を通して地域への問題周知が進みつつあり、今現在も新たな署名が寄せられています。また、8月のイオンリテール株式会社との話合いや市に対する公文書開示請求、その他私たちの地道な調査活動では新たな事実も明らかになっており、入間小のケヤキを残すべきという私たちや賛同者の思いは日増しに強くなっています。一方で、市担当課や市議会議員からは、「私の権限では変えられない」「市長が判断する問題だ」との声も聴かれています。

つきましては、下記の通り小谷野剛市長との面会を申し入れます。地域住民や賛同者の強い思いを重く受け止め、何卒ご対応くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

- (1) 面会希望日時 10月11日から25日までのご都合のつく日時、1時間程度
- (2) 訪問者 代表ほか2名(予定)
- (3) 内容
 1. 「旧入間小のケヤキとイオンの共存を求める署名」第二次提出
 2. 市長のご見解の聴取
 3. 入間小のケヤキ保存に向けた要請

以上

入間小のケヤキを未来につなぐ会
代表 福住 勇矢 様

狭山市長 小谷野

剛印

拝復 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

貴団体におかれましては日頃より、入曽地域の振興発展にご意見をいただいておりますことに感謝を申し上げます。

ご要望をいただきました私との面会につきましては、面会を希望する全ての個人や団体から、ご意見やご要望を直接伺うことはスケジュール的に難しく、公務への影響も懸念されることから、原則お断りしております。ご希望に沿うことができず誠に申し訳ありません。

市政に関するご意見やご要望につきましては、これまでと同様に、私の提案制度や担当所管を通じてお伺いし、必要に応じて書面で市の考えを回答してまいりますのでご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、公職にある方との面会、スポーツや文化芸術など各種分野で著しい功績をあげた方や団体の表敬訪問、公的・公共的な団体や業界団体からの要望受理や役員交代など慣例的な挨拶、所管同席のもとでの公共事業を受託した事業者との面会や市が後援・協賛したイベント実施に伴う主催者からの挨拶は、この限りではありません。

次に、ケヤキに関する市の基本的な方針につきましては、入間小学校跡地利活用事業における進出事業者より、入曽地区の住民の方々に対し実施したアンケート調査の結果も反映された魅力のある施設として、ブックカフェ・キッズパークが提案されており、若者や子育て世代など多世代が集うような地域住民が希望し、交流人口増加が期待できる有益な施設だと考えており、現在の位置にケヤキを残した場合、これらの施設の建設に影響があるほか、人の集まる商業施設内にケヤキを残すことで、台風や老化などにより枝の落下や倒木による人的・物的被害のリスクがさらに高まることが想定され、本年8月には鹿児島県で学校のイチョウの枝が折れ、死者が出た痛ましい事故も発生しています。更には、以前より周辺住民から風雨によるケヤキの落ち葉の処理に対する苦情も寄せられています。

これらのことを踏まえ、ケヤキの存続についてはこうした商業施設へ影響や安全面、維持管理上での懸念事項が払しょくされない限り、現状においては難しいものと考えております。

以上、回答といたしますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

敬具